

筆山

第12号 / 1991. 7

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同学社気付 ☎03-3816-7011 / FAX03-3816-7044 編集人/戸田博之 (38回)



新年総会で餅つきに汗を流す松浦先生(中央)



特設のタタミも登場

松浦勲先生を送る会 に出席させて頂いて

去る3月31日三翠園ホテルで松浦先生を送る会が盛大に催されました。関東支部の代表として出席させて頂きましたが、立派な諸先輩あまたおられる中で、私のような浅学非才の者が記念品をお渡しする大役を仰せつかり、恐縮しました。

松浦先生は昭和20年10月から、平成3年3月31日までの45年間の永きにわたり、土佐中・高等学校で教鞭をお執りになり、ただ一筋に母校とともに歩んで来られました。この一以貫之としたお姿にはいまさらながら、頭が下がります。

会場での先生は、やさしさと気品あふれる中にも、凛とした風格をたたえておられました。むしろ小夜子奥様がこの45年をふり返ってか上気なさっているようにお見受けしました。

最近の私のお気に入りの言葉に「人生百年、最後は一週間」というのがあります。先生どうぞお健やかに老いますように、そして悠々自適の生活を奥様とご一緒にお楽しみ下さいませ。

28回 壺坂 艶子

新校長に森田幸雄先生



ごあいさつ

この度関東支部会報「筆山」の貴重な紙面をお借りして着任のごあいさつを申し上げます。任の出来ましますことを心から嬉しく存じます。私は四月一日付けで土佐中・高校長を拝名いたしました森田幸雄と申します。先だっては関西支部便り「南風」紙上でも同様のお願いを申し上げたところですが、同窓諸兄姉には何卒お見知りおき賜り、よろしくご指導、ご協力の程希う次第であります。

さて、若干就任に当たっての感懐を述べさせて頂きごあいさつに代えたいと存じます。卒直に申しまして私の学歴、教員歴（行政担当歴を含め）

等は国公立関係が総てであつた為、本校着任後は一から学び直すことばかりであり、緊張の日々が続いているのであります。従つて現時点で直ちに本校教育振興上の懸案解決にかかわる具体策をお示ししてご批判を頂くまでに至つてはなりません。ただ時代の推移に拘らず「報恩感謝の理念のもと社会に貢献する人材を育成する」という本校建学の精神は古風な表現で申せば、柄手として不動であり、総ての源をここに求めながら学校経営を行つてまいりる決意です。そこでご休心を賜りたいのであります。また私の敬愛する松浦勲前校長先生は、生徒諸君に対し事ある毎に三冊子の不易流行という心を説かれておられますが、伝統を確かに引継ぎながらなお殻を破り飛躍を求め続ける本校の有りようを示された言葉として、私もしっかりと受け止めさせて頂いたところであります。

さて私は過去三十八年間の教職生活の中で、県立高校普通科を中心に五校で、また県教育委員会事務局（この中には宮地貫一本校理事さんが助成課長を勤められていた当時の文部省地方課研修出向も含まれています）の各部署で勤務をいたして参りましたが、どの場においても教育という神聖な営為に従事することの誇りと責任を感じて参りました。そしてこの度ご縁を得て文武両道の達成と英才教育を校是とする皆様がたの母校に職を奉ずることができたことを身に余る光栄に存ずると共に、今までのどの職場にも増して責務の重大さを痛感しているところでもあります。また同時に孟子（尽心上）の「天下の英才を得て之を教育するは三の樂しみなり」を実感し得る有数の教育現場で人材育成の日々を過ごすことの素晴らしさ、即ち教育者冥利を囁みしめているところでもあります。更に本校教育の強みの根元に、自学自習の伝統があることも嬉しい極みであります。有名な国語教育の実践者である大浜はま女史の話に

次のような印象深いものがあります。

「仏様が道ばたに立っていらつしやると荷物を一杯積んだ車が通りかかった。そこは大変なぬかるみで、車がはまつてしまった。荷車を引く男は汗びっしょりになって苦しんでいるが、車はいつか動こうともしない。仏様は暫く様子を見ておられたが、ちよつと指でその荷車にお触れになった。その瞬間車はすつとぬかるみから抜けてカラカラと男は引いて行つてしまった。（男は仏の指の力に与つたことは永遠に知らない）」

この寓話に対する女史の解説はこうであります。——もしその仏様のお力によって車が抜けたことを知った男は、仏様に跪いて感謝したのである。しかし自分が努力してついに引き得たという自信と喜び、つまり一人で生き抜く力は何分の一かに減つたではないだろうか——。

この寓話と女史の説明の中に私は教育の要諦があると思ひます。特に自ら課題を見出し工夫して解決を導き出すことを学習の基本姿勢と考える本校にとつては、指導者たる私たちの特段に留意すべきこと

とであると思ふのであります。最後に昨今本校教育の更なる前進を願われての同窓諸先輩の方がたから、厳しいご指摘やご要望を頂戴してあります。そしてこのことは口幅つたい表現ながら、本県後期中等教育振興の原動力たるべしという県民各位の本校に対する要請と重なるものと認識しております。これ等の負託にお応えすべく、今後は教職員一同使命感に徹し、心を一にして最善の努力を致す決意です。ので、重ねて同窓諸兄姉各位のご声援をお願い申し上げます。禿筆のまま就任のごあいさつといたします。

平成三年五月十二日

森田 幸雄

（もりた・さちお）

昭和五年一月十七日生まれ。旧制城東中、広島高等師範卒。二十七年追手前高教諭となり、県教委高校教育課長、中村高校長、県教育次長などを経て、六十年から昨年三月まで追手前高校長。

家族は篤子夫人。趣味は読書（宮尾登美子作品類）。血液型A型。座右の銘は「無為而化」（無為にして化す＝史記）



関東支部会員各位

皆様其後お元気でご活躍のことと存じます。私こと本年三月末で、土佐中・高等学校での教職生活に終止符を打つことになりました。

顧みますと、昭和二十年、新米教師として奉職、大嶋、曾我部両校長先生に仕え、終りには校長職に十年、母校勤務は四十五年になりました。微力のまま、無為のうちに過した感がありますが、長い間のことで、思い出深いこともいろいろ甦り、往時をあれこれ偲んでおります。その間、皆さん方からはご激励やご協力を頂きありがとうございます。

在職中はなにかと教えられたこともありました。「教えることは学ぶことである」また「人間はいろいろの意味で、誰からでも学び得るものである。学ぶべきである」などの先人の言葉がしみじみと心に

残ります。

今、新校長森田幸雄先生を中心に教職員の方一致協力の下に、母校が一層の充実と発展をされること、そして、卒業生各位が幅広い分野で、悔いのないご活躍をされることを、ひたすらお願いいたしております。

尚三月三十一日の小生を送る会に際しましては、立派な記念品を頂戴しまして、まことに有難うございました。厚く御礼申し上げますとともに、今後とも皆様のご健勝の程お祈りいたします。

右とりあえずご挨拶まで。

平成三年五月八日

高知市三葉町二二三 自宅にて
(電話0888822759)

松浦 勲

松浦先生を送る会 盛大に開かれる

「松浦先生を送る会」が三月三十一日、高知・三翠園ホテルで開かれ、同窓生ら四百余人余が出席した。

関東支部からは、教え子の壺坂艶子副幹事長(28回)が出席、記念品にからくり時計を贈った。

終戦後間もない頃、土佐校に谷熊彦先生という数学の先生が居られた。東京ご出身とかで、お年は五十才余り。チヨビ髭をたくわえた小柄な先生で、一見、村夫子然たる風采ではあったが、何か飄々とした風格の漂う先生であった。先生のご趣味は投網。休日にはお城下の東、弥エ門の丸に出かけては、小さな投網を振り回していた。

当時、弥エ門には葦の生えた沼が連なり、ボラや鰯などが多く、風流人の格好の清遊地であった。都会育ちの谷先生は夢中で投網を楽しんでいた。

そんな或る日――

先生は何を思いきや、愛用の投網をかかえて名門土佐校の職員室にやってきた。やがて昼休みとなるや、やおら例の投網を自分の椅子の下あたりに投げて、ご本人は床の上に、ドッカと大胡座を組んだ。そして、「あっ」と驚くカマスやオンカンを見目に、悠々と編目の修理にとりかかった。仰天した先生達で、忽ち時ならぬ人だかりだ。毒舌家をもって鳴るカマス先生な

どが先頭になって冷やかし始めた。

「今度はアブラコ(めだか)をやるかよ」

「うんにや、鯨じやろ」

然し、谷先生はちっとも騒がず、悠然として云った。

「けんどねえ、これはエエぞね。教壇から生徒を見たら、

甚田先生歳時記③

弥エ門のボラ

田内 瑞穂 先生

またもや、「あっ」と驚いた、いたすら坊主の先生達――その周章狼狽ぶり、まさに抱腹絶倒も良いところだった。

昭和二六年、甚太君は着任早々、若き英語教師、松浦先生(前校長)から、この珍談を聞かされた。甚太先生は松浦先生と共に噴き出しながらも、一方、妙に土佐校の温か味と、大嶋校長の大きな愛が感じられた。以来、甚太君は土佐校が好きになった。あれから半世紀近い歳月が流れた。谷先生の「弥エ門のボラ」は、今は大きく成長して世界を股にかけて泳ぎはじめた。



土佐流に '91新年総会

10月5日に学年幹事会
役員改選などを議題に、関
東支部学年幹事会が左記要領
で開催予定。
日時 10月5日午後3時
場所 新日鐵「山谷寮」

出版レーダー

平成三年の関東支部新年総
会は一月十二日、午後三時半
より、サンケイホールで開か
れ、二二〇人余が出席した。
母校より松浦勲校長、西峯隆
博先生をお招きした。
総会では名古屋からかけつ
けた、70周年記念出版「アル
プス席の全力疾走」の著者清
谷知郎氏(52回)の甲子園応
援裏話の講演を聞いた。

懇親会は初めての試みとし
て、ホールに畳三十畳を敷き
詰め、立食と座敷の折衷形式。
臨時の座敷はあつという間に
満席になって、さすが土佐人。
「来年は畳を倍にして」の声
もあって、なかなかの好評。
困ったのはやはり、靴の間違
いが二件。「犯人」はいまだ
不明。

モチつき、囲碁大会などの
イベントも加え、久しぶりに
飲み騒ぐをテーマにした土佐
流の懇親会だった。

来年は一月十一日(土)、
同じサンケイホールで。

▼「可能性を求めて」―公文
公・会長喜寿記念文集Ⅱ刊行
委員会編。一九九一年五月刊、
600円。井上清、近藤久寿
治、倉橋由美子、竹内靖雄各
氏ら同窓生の他、井深大、や
なせたかし氏らが同会長との
出会いを綴る。また、第2部
では青木洋子、大町玄、川村
克彦、川村哲夫、公文俊平、
西山五朗の各氏が岩谷清水氏
の司会で恩師を語る。

▼写真集「いとしの町」とさ
佐賀―(幡多郡佐賀町町制施
行50周年記念出版)Ⅱ撮影・
島内英佑(30回)・奈路広氏
▼「誤りやすい異常脳波」Ⅱ
39回・市川忠彦氏。医学書院
・一九八九年刊・3708円。

▼「自民党株式会社・社長戦
争」Ⅱ40回・塩田潮氏。徳間
書店・800円。「官邸決断
せず」日本経済新聞社・16
00円Ⅱ同氏

竹邑 類氏(35回)の
ミュージカル
坂本龍馬

ダイエーの中内功会長が三
度も見て涙を流したといわれ
る「ミュージカル・坂本龍馬」
の高知公演Ⅱ七月十二日、十
三日、高知県民文化ホール。
西城秀樹(坂本龍馬)、雪村
いづみ(お登勢)他。

北村文典氏(39回)の
「櫻月記」を観る

去る三月、お嬢さんの卒業
式に上京した大野亀代さんに

著者の三毛(サン・マオ)
は台湾の女流作家である。ス
ペイン人の夫ホセと過ごした
サハラが本書の舞台。

三毛はいわゆるウーマンリ
ブとは違うが、結婚しても自
分の生き方は変えない自立し
た女である。彼女のそんなと
ころがホセは好きだ。

十歳の少女の結婚の儀式、
風変わりな銭湯見学記など習
慣の違いは、我々に珍しさや、
驚きを伝えてくれる。医者
に行こうとせず、赤チンなど

誘われ、帝劇に上演中の東宝
演劇「櫻月記」を演出されて
いる同期の北村文典さんを訪
ねました。

北村さんは東宝演劇部に入
られ、昭和六十年に宇野千代
の「生きていく私」を花柳寿
美主演の舞踏劇として演出し
てデビューされました。この
時も同期生何人かで拝見しま
したが、最後の場面で主人公
が立ちつくしている上に桜の
花びらがひそやかに散るさま
は今も目に浮かびます。

帝劇の正面入口で待ってい
てくれた北村さんは、席が一
杯なので、と一階の奥にある
ガラス張りのダイレクターズ

の葉をねだりに来る住民、ナ
イフとフォークを毎日借りに
くる隣人など日常生活の触れ
合いの中で、三毛はさまざま

サハラ物語

三毛著・妹尾加代訳
(35回生)
筑摩書房・1540円

の体験をする。
中国語圏に読者数億人と
いわれる三毛の作品が、若者
の心をとりこにしていること

ボックスといった部屋に案内
してくれました。ちよつとし
た関係者の気分で、舞台全体
がよく見渡せました。

「櫻月記」は、関西のお笑
いの中心、吉本興行の創始者
吉本せいの一二代記。森光子の
主演で満員の場内からは皆さ
んの期待と興奮が伝わってく
るようでした。

明治四十年の大阪道頓堀あ
たりの風景。丁寧に作られた
セットに人が行き来し、衣装
の色合いの綺麗さに、北村さ
んの細やかな神経の行き届い
ていることを感じました。

39回 竹前征矢子

について、訳者の妹尾さんは
「単に、彼女の体験の珍しさ
や、潤滑な生き方のせいだけ
なのでしょうか。彼女が歌う
愛、人間と自然に対する大い
なる愛に打たれているのでは
ないでしょうか」とあとがき
に書いている。

その三毛は、ことし一月、
四十八歳の生涯を自ら絶った。
砂漠に限りない愛と潤いを
残して……。
妹尾さんは35回生で、山口
県在住。

●支部前半活動

1月12日 新年総会(サンケイホール・二二七名)

1月26日 関西支部総会に宮地支部長、浅井幹事長、満淵副幹事長出席。

2月9日 広島支部総会に宮地支部長出席。

2月16日 名古屋支部総会

2月22日 常任幹事会(KK R竹橋・二〇人)

3月9日 名簿作成会議

3月31日 松浦先生を送る会(高知・三翠園)に壺坂副幹

事長出席。
6月1日 名簿作成会議

●常任幹事会開く

二月二十二日、KKR竹橋で開いた常任幹事会は、二十名が出席、新年総会の反省と来年度の総会案、筆山12号、年会費の値上案、役員改選案などについて話し合った。

●土佐寮改築募金にご協力有難うございました

明治三二年に創設され、高知県の育英の拠点として長い



追憶・ディック・ミネ

初代校長・三根円次郎先生のご長男で歌手のディック・ミネさんが六月十日、急性心不全のため亡くなった。八十二歳だった。

六年前、サンケイホールで開かれた支部総会に、ゲストとして出席、「オヤジは偉大だった」とスピーチをして下さったことが昨日のこのように思い出される。

最後にお声を聞いたのは、二年前の秋だった。筆山9号にお父上のことを書いて頂くため電話したところ、手が震えて書くのはつらいので、聞き書きでまとめて欲しいとの返事。そのまま電話口で思い出話が始まった。

結局インタビューは一時間に及んだ。ミネさんの話しは次々とよどみなく続いた。その言葉のはしはしに、父親と土佐中を誇りに思う心が感じられ、筆をとりながら目頭が熱くなった。

さすが大校長の血筋だ。電話の向こうに三根先生を見るような気がした。合掌(岩)

実績と伝統を誇る土佐育英協会の経営する土佐寮(三鷹市)の建物老朽著しく、改築されることになった。

土佐寮の学生は例年、土佐高出身者の占める割合が高く、昨年度も六十三名中、二十八名と四四パーセントが本校の出身者となっている。

改築募金に関東支部の多数の会員から協力があつた。

平成三年の年会費納入

状況 五月末日現在で、772名。未納の方のご協力宜しくお願いします

郵便振替

東京7-142816

土佐中・高同窓会関東支部事務局

●母校に作品を寄贈

絵本作家の西村繁男さん(40回)は、五月二日、旧校舎などを描いた水彩画「向陽曼陀羅」を母校に寄贈した。

高知市の画廊で開いた里帰りの個展を期に寄贈したもの。

おくやみ申し上げます

久保田辰重先生

(平成三年六月二十六日)

福岡真事氏(23回)

進藤貞和氏の銅像建立へ

三菱電機相談役の進藤貞和氏(3回)の、銅像が中高知県知事らの呼びかけで建立されることになり、母校・同窓会は、募金に寄付した。

銅像は高さ二・四メートルで、三菱電機高知工場前に建立され、十月下旬開幕式予定。

「直さん」からの手紙

本年三月末、永年の教員生活に終止符をうちました。顧みますと土佐中・高校の三十五年間、土佐塾予備校・同高の十年間、試行錯誤と反省の毎日でございました。とくに昭和二十四年からの土佐高校野球部長、また県野球連盟理事長として故佐伯全国高野連会長、牧野現会長のお引立を受け、昭和二十七年選抜以降、七回甲子園に出場できましたことは皆々様の温いご指導とご協力の賜と改めて心からお礼申し上げます。

末筆ながら皆々様のご健勝と土佐中・土佐高のご発展を祈念申し上げ、おくればせながら退職のご挨拶といたします。平成三年六月

山本 直四郎

ぐんぐんバンク

四国銀行

本店/高知市南はりまや町1-1-1 ☎(0888)23-2111代

店舗/高知県下74店舗・徳島県下27店舗・香川県下

8店舗・愛媛県下7店舗・本州地区11店舗



四国銀行のイメージキャラクター「四国銀行マン」のイラストです。

思い出の先生方 ⑨ 熊野 義雄 先生

(昭和46年
ご逝去)

長女 和食 康子

(39回生)

教育者としての父

昨年十二月十五日に同居していましたが母が八十歳で亡くなりました。病弱ながらも、元気に散歩や庭仕事を楽しみに日々を過ごしていましたが、風邪をひき一週間の入院であつたという間に旅立って行きました。父も十八年前の秋に元氣そのもので関西への旅行の準備もし、出発間近い日に心筋梗塞でたおれ、そのまま旅立って行きました。子供達には世話をかけたくないというのが口癖でしたので思いのままの往生だったようです。土佐高校のよく見える筆山のお墓で十八年振りに会い、昔話を楽しんでいることでした。

子供の生活中心に

父は昔の高等師範学校、今の筑波大学に入学し、学資はいらなかったものの、貧乏学生として苦労したようです。

卒業後、高知に帰り、安芸高校、小津高校、朝鮮の学校と赴任して、教頭まで出世しましたが、家族に不便な生活をさせたくないと言って、県庁所在地から離れない方針で私学の土佐高に移ったそうです。地位や名譽より、子供の生活を中心と考えての選択だと後で聞かされました。

父は数学を愛し、家族を愛した人でした。学校から帰ると家にいつもいました。休みはもちろんで、暇さえあれば数学の問題を解いていました。長男が医学部に入り、続いて次男、三男も医学部に進んだことに對し、父は、「教師の家に育つたことにより、勉強する習慣が出来、いつでも助言を受けられる安心から余裕をもって勉強してくれた」と、大変満足していたようです。しかし、末っ子の私には、初めての女の子であつたので珍

しくもあつたのでしよう、兄達とは違つてあまり勉強の方の指導はなく、音楽や運動のびのびとした青春を送らせてくれたようです。

スポーツを奨励

父は勉強だけでなく、よく遊びに連れ歩いてくれました。子供達にはスポーツをすることを奨励していましたので、上二人の兄はテニスをし、一人は国体まで行き、三男は第一回軟式野球全国大会で優勝しました。私も学生時代は卓球をし、現在はテニスを楽しんでます。そういう父がどんなスポーツをしていたかあまり知られていませんが、朝鮮にいた頃は乗馬を楽しんだ反面、自転車には一生乗ることが出来なかった意外な面もあつたようです。

疲れると散歩に

数学に頭を使い、疲れると散歩に出かけるのが常でした。母と二人で夜の町を歩くのが好きでしたが、昼間は一人でよく出かけていました。行く

場所は競馬場や競輪場です。これは良い運動になり、刺激があり、人間の機微にふれて精神の若返りに良いと思つていたようです。賭事ではなく、確率や組合せを楽しむのだとも云っていました。最近の競馬ブームで、若者や女性のファンが多くなっているのを見るとさぞかし驚くことでしょう。教育者の身にありながら、と思わない訳ではないですが、主人も結婚以来競馬を楽しんでおり、この先駆的ギャンブル愛好家を認めざるを得ないと思つています。

私は教師の家に育ち、いつも両親がそばに居て影響を受けられた事を感謝しています。私の長女が現在大学二回生で教育関係の道に進みたいと頑張っています。彼女自身祖父のことは記憶にはないので、父と同じ道に進んでくれることは私にとって、父に対して恩返しが出来ると感じています。期待し、応援してやりたいと思うこの頃です。



1971年2月1日

同 期 会

●16回

一九九〇年十一月十六日、母校創立七十周年記念日の催しを翌日に控え、第十六回生の有志ら十七人、はりまや橋際の得月楼本店に参集、卒業から半世紀の旧交を温め懐旧の夕を過ごしました。

(曾和純二)

●30回

六月一日、公文、吉田両先生をお招きし、竹橋・アラスカに三十数名が集まりました。ちょうど公文先生の喜寿のお祝いも兼ね、先生から全員に記念文集をいただきました。二次会で当日竹橋で同期会の三三回生グループに奇遇。山本先生(直さん)に久しぶりにお会い出来、白球を追った昔を懐きました。それにしても三三回生と会場が至近距離だったとは!

(浅井伴泰)

●33回

記念同窓会を8月17日に

昭和33年3月、土佐高を巣立った33回生は、平成3年3月に卒業33周年を迎えた。そこで「卒業33周年のよりあい」を8月17日に催すことになった。

当日は早晩から土佐の海、

山に散開し、夕刻6時から高知市文化ホールに集合、下ごしらえをしてから、夜半には高知市内各所に展開の予定。三年前の卒業30周年には一次会だけでも一五〇人を集めた33回生。今回はそれ以上の参集が予想される。

●39回

33回T33番 (宮川洋治)

時、あたかも国会開設百年ゆかりの明治記念館で十二月一日、恒例の39回生同期会を開きました。高知より古谷先生、黒岩、門田両君をお迎えし、総勢四十名が集い旧交を温めました。

宴果てて庭にですと、十二月とも思えないこころよい風・満月。思うことなき……真になごやかな、楽しい一夜でした。(大和田洋子)

筆山会だより

●第20回筆山会ゴルフ

5月16日、レインボーCC、参加35名、竹田幸雄氏(33回)が初優勝。上位成績は次の通り。(敬称略)

①竹田幸雄	33回	85	G
②福本栄子	28	97	H
③大和田洋子	39	104	31
		73	72
			70
			N

④北岡龍海	34	5
⑤八井田元	93	97
B G 竹田幸雄	38	47
	11	85
	77	77

同ネットは年齢順
次回は10月23日(水)千葉県・大栄CCで開催予定。

16 吉沢信一	20 久保内貞行
22 前田速雄	23 岡崎昌生
25 山本高敬	25 上田雄司
26 近沢節夫	30 阿部辰雄
30 新階 尚	31 松本祐一
32 上田敏郎	33 小松建紀
33 池添久茂	33 千原 望
33 尾神俊彦	33 高島 等
33 宮川洋治	33 沢村良節
35 公文敏雄	35 植田 豊
35 中村明裕	37 竹内章敏
37 弘瀬孝昭	38 岡田四郎
38 高田谷洋	38 三宅ヨシロウ
38 中島 宏	41 小松三男
44 萩野友康	52 天造豊彦

母校だより

(退職)▽校長 松浦勲▽教諭 新階節、木内由雄、北川啓夫▽講師 近藤日出男、吉良修

(新任)校長 森田幸雄▽教諭 武樋速雄(英語) 鎌田圭子(英語47回) 坂本隆(社会47回) 北泰子(技術) 竹内宏州(数学) 森淳子(社会58回) 永野真弓(理科)

●進学状況(カッコ内は昨年)

北大1(2)	青山19(14)
東北3(0)	慶応13(23)
東大4(7)	上智8(12)
東工6(4)	中央15(17)
お茶2(2)	東理27(8)
一橋0(2)	日本21(11)
名大2(4)	明治17(7)
京大6(6)	立教5(7)
阪大6(12)	早大29(37)
神大4(9)	同志8(9)
高医9(8)	立命17(18)
九大1(4)	関西14(9)
	関学11(12)

▽県高校体育大会 優勝 なた(同好会)、剣道

(運動部)四国大会出場(中学)水泳、陸上(高校)登山、陸上、卓球、バドミントン、柔道、自転車、弓道、水泳など。全国大会出場(中学)水泳、陸上、バドミントン、卓球(高校)ハンドボール、バドミントン、登山、卓球、剣道

▽四国高校選手権 Ⅱ ハンドボール(3位)

同窓会総会のご案内

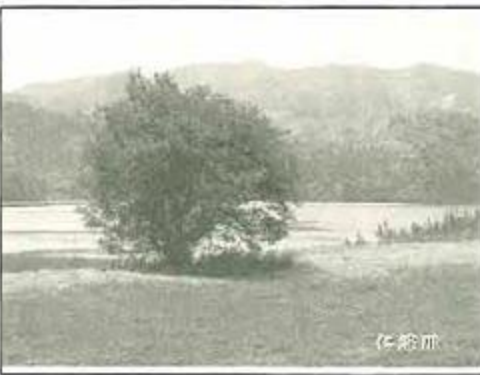
日時 Ⅱ 八月十七日(土)午後四時半(懇親会は午後六時)場所 Ⅱ 高知・三翠園ホテル 会費 Ⅱ 五千元(学生半額)

龍馬も、鯨も待っている
ふるさと高知

暮らしいきいき、ビビッドバンク

高知銀行

東京支店 中央区八重洲2-6-21(電)03-3273-3061



仁徳川

おめでとう藤沢主将

(61回)

東大野球部 悲願の200勝



東大を応援に支部有志三十名ほどで神宮へ。応援する理由はただ一つ。主将が61回生の藤沢章雄君。部長が32回生の岡村甫氏という同窓のよしみ。みごと二〇〇勝を達成し、その夜は大いに美酒に酔いました。以下は感激のレポートです。



七〇と零 私の尊敬する岩淵達治教授（学習院大学・ドイツ文学・演劇界の権威）の東大野球部ファン歴は小学生の頃からとか。先生は東大の七〇連敗試合の殆どを見ていられる。私は何十年ぶりの神宮で念願の二〇〇勝を眼の当りにした。七〇連敗の苦汁を一度も味あわずに。確かに幸運だったに違いない。だが岩淵先生とはその欣びに雲泥の差のあることを知った。しかし、岡村甫野球部長と藤沢章雄主将、これは同窓だけの欣びである。

近藤久寿治 16回

目指せ勝ち点

一九九一年六大学野球開幕の日、何十年ぶりの神宮球場三塁側の内野席、まさしく「来たり、見たり、勝ちたり」昨秋の覇者立大に見事な逆転勝ちで、待望の二〇〇勝達成。本心に胸のすく快勝でした。岡村甫部長、藤沢章雄主将、おめでとう。次はぜひ勝ち点をあげましょう。最初の勢いがちよつと無くなったように気がかりです。夢が大ききもう一度。

曾和純一 16回

更なる精進を望む

土佐高野球部監督

籠尾良雄

ああ快なる哉、快なる哉。東大野球部の二〇〇勝達成。ことに岡村甫・新野球部長（東大在学中投手として十七勝）と藤沢章雄・新主将の両OBがかかわっているだけに、感激も一入で、また大いなる誇りを感じました。願わくば藤沢君が「蜂の一刺し」に終ることなく、更なる精進を重ね、多くの白星を重ねられるようお祈り申します。

あの晩結婚式から帰り、浅井伴泰さんからの電話で二〇〇勝達成の吉報を聞き、飛び

35年ぶりよ

六大学野球！ほんとに久しぶりです。ご一緒した増田夫人など三十五年ぶりのこと。お弁当も買っていたいそいそと、空模様を心配しながらも、まさか立教に勝つとは思わず、気楽に神宮へと出かけました。『もしかすると』という予感はありませんでしたが回を重ねても、三者凡退、一点先取されて、やはりこれまでとあきらめられた途端の逆転勝利。楽しませてもらいました。

福田知子 29回

ハッピーな一日

先ずは心よりお祝いを申し上げたい。エラーに救われたとはいえないものの後の猛打で打線はターボエンジン全開！後輩の藤沢君もヒットを打ち、得点に結びついたので、実に感動的だった。勝てば官軍、まさにこの一言に尽きるのではあるまいか。みんながともハッピーな一日だったと思う。また、このような機会に恵まれることを期待してやまない。

近藤将規 55回

上がらんばかりに喜びました。しかも支部長の宮地貫一先生をはじめ数十名の同窓生が「土佐中・高同窓会関東支部」の職を押し立てて応援して下さいましたことを知るにおよび、「これぞ土佐高」と意気に感じると同時にあわてて高知新聞運動部長に電話を入れましたが、あとの祭りでした。

昨年十一月二十四日には、関東支部の多くの方々の賛同を得て、東京で「東大野球部新主将藤沢章雄君激励会」を開催した席上で、開幕の対立戦に応援に行こうとの呼びかけを聞いていただけに、事前取材のお願いをしておかな

母校土佐高野球部も春の息吹が高まっています。昨秋以来十一名の部員（うち新生三年生四名）で悪戦苦闘が続きましたが、四十四年の野球部史上で最多の十七名の新入部員（土佐中より十名）を迎え、

俄然活気づいています。これを「最期の天の恵み」と感謝しながら、監督生命の全てをかけて甲子園を目指します。一層のご支援・ご声援をたまわりますようお願い申し上げます。

狂喜乱舞

ひよつとしたら東大の二〇〇勝達成が実現するかも知れないという予感がして、岡村新部長、藤沢主将の応援に同窓会関東支部有志で駆けつけた。試合は七回二死までパーフェクトに封じられながら、八回藤沢主将などの四連打で4点を奪い逆転し、4-1で逃げ切った。近藤久寿治先輩以下全員狂喜乱舞した。

田所鴻一 30回

ゲンの良いのぼり

関東支部の「のぼり」を立てて開幕戦の応援に行こうと決めたのは昨秋の藤沢主将激励会。試合は七回二死まで被完全試合。二〇〇勝のはずが完全試合負けか？、どちらも球史に残るがこんなはずではなかったのに。どうも「のぼり」が悪いのではないか、そう云えば初持参の甲子園でも一点も取れなかったなどと考えていると、突如打戦爆発、藤沢君のダメ押し打も出てまさかの逆転勝ち。試合後東大駒場での花見、酒盛りと一日東大OBを楽しんだ。今度はこのゲンの良い「のぼり」の下、甲子園で「向陽の空」を!!

浅井伴泰 30回

やったやった

球場に足を入れると心は一気に三十数年をタイムスリップ。もしや、もしやでスタートし、すぐに「やったばかりか」とクシユン。だが一挙4点の大逆転に「やったやった」。おなじみ「ハラハラの道」を経て「勝った勝った」の大歓声。応援歌の連打、エールの交換、そして応援団学生の涙。神宮の森に春の嵐。関係者の皆さん、ありがとうございました。

前田 哲 31回

桜ちる

四月十三日は名残の花吹雪、土佐高の選抜出場の時が懐しく思い出されたことであつたが、神宮で喜びを共にできなかったのは残念であつた。実はそれも桜のせいなのである。幹事の宮川氏から、応援のあと東大教養学部野球場の土手のしだれ桜の下で祝賀会か残念会をやりたいが、桜は大丈夫かという電話が三月にあり、それ以来桜ばかり気になっていった。当日の朝見ると文字通り「サクラチル」で、今日もだめかと研究室にこもっていたためである。サクラにまどわされてはいけなかったのである。

久保内端郎 33回

二〇〇勝を達成して

藤沢 章雄

当日には関東支部の方々から応援に来て下さった。勝つことが出来てホッとしたと同時に故郷に錦を飾ることが出来たような気がして本当に嬉しかった。主将としての初陣を勝利で飾ることが出来たもの、続いて勝つことの難しさを今は思い知らされてもいる。龍尾先生はじめ、お世話になった方々のご恩に報いるためにも秋には全力をつくしたい。ありがとうございました。

気分は最高(ブレイボール)

馳せ参じたお兄さん、お姐さんもう方振りの応援でノリがイマイチ(七回)「こりやあどろもいかん」パーフェクト負けかや(八回)「転東大走者が塁上を駆け巡り、同点、逆転、そしてバッター藤沢。打った。ライト前。ダメ押しの走者を迎える巧打。『ようやった』。『今宵の酒はうまいぞ』。『ワイワイガヤガヤ』気分最高の半日と相なったのは、関東支部の時宜しき企画と皆様の心がけのお陰です。深謝

公文敏雄 35回

土佐OB18人目の主将、藤沢君

藤沢章雄君は土佐高61回生。東大では片山直久(38回)・浜田一志(58回)の両氏に次いで三人目の主将。土佐高OBで大学野球の主将としては十八人目になる。

38回 片山直久 東京大
40回 島村 聖 慶応大
42回 上岡誠二
44回 萩野友康
47回 高多倫正
51回 中村 哲

見ごたえあり

8回長短打合わせで一挙に四点を奪う。藤沢も打点1。しかしこの裏長打、四球などで一死満塁のピンチ。これを併殺でしのいで念願の二〇〇勝である。見ごたえのある試合であつた。近藤、曾和、宮地先輩らの喜ぶ顔が印象的、試合後の藤沢君の顔も輝いていた。

大石和男 40回

一発勝負試合は東大の負け

バターンで七回まで完全試合ペースであり、ヒット一本打てば上出来だろうとさめた目で観戦していた。ところが、

51回 楠目博之 関学大
52回 武内則尚 東経大
53回 大西修二 高知大
54回 中田 等 同志社
56回 石井浩士 岡山大
57回 岩井秀晃 香川大
58回 浜田一志 東京大
61回 森山健一 慶応大
藤沢主将は、六大学野球のハワイ遠征チームのメンバーに選ばれた。

東大らしからぬ二死三塁からのドラッグバントを取行し一点をあげたのは正直びっくりさせられた。このプレーは土佐高時代に県予選の決勝戦で、延長一〇回に高知高にやられサヨナラ負けをくらった。弱い思いのプレーでもあつた。弱者が一発勝負をかけるこのプレーを境に東大の選手がはつらつとしてきたのにはまいりました。そして大逆転、藤沢君もライト前にクリンヒットし打点をあげ、万々歳である。正直いつて母校慶大でなくほつとしています。

萩野友康 44回

女子大生とともに十一年

国分寺女子ハイイツ

館長 島内 淳 (16回)



会館の前で女子大生と

女子学生会館の館長になってから十一年になる。学生会館といっても下宿屋の一種だから、体の良い下宿屋の親父である。ただ、女子学生会館の場合は普通の下宿屋と違って門限と外泊にうるさい。住宅関係の新聞に頼まれて女子学生会館についてのレポートを書いたら、「親は安心、子は敬遠」という見出しをつけられた。これは、半分は当た

っていて入館の申し込みにくするのは九〇%が母親である。後は、娘を初めて異郷に手放すのが心配でしようのない父親か、すでに大学の学寮で暮らしていて学年が進んで寮を出される学生本人かである。

門限は夜10時半

国分寺女子ハイイツの門限は午後十時半である。国分寺のように、都心から三十〜四十分のところ、十時半は早す

ぎるという声もあるが、それでも百三十七名の館生のうち門限遅刻は毎日三〜四名だから、よく守られているといっている。

玄関は門限時刻になるとロクとしてしまうので、遅刻をすると警備の職員にあげてもらわなければならない。その時に行き先・理由・帰館時刻を書かせることになっている。理由はほとんどがコンパ・クラブ活動であるが、中にはいわゆるダブルスクールで、夜の専門学校に通っているという感心な学生もいる。

月一程度は大目に

規則違反に小言をいうのが私の役目だが、週に二・三回も遅刻をするという、夜遊び型の学生以外にはあまり注意をしない。月に一回程度遅刻が繰り返されるのは、普通の親でもメクジラを立てまいと思うからである。

部屋はすべて個室だが、お世辞にも広いとはいえない。全部で十畳弱の床面積に、ユニットバス・ミニキッチン・洋服ダンス・本棚・ベッド・机・椅子が備え付けてあるの

今、こんなことをしています

⑨

かそこらである。その僅かなスペースに、テレビ・コンポ・姿見・整理棚などが置かれるから、よほど整理に気を配らないと、人間のいるところになくなってしまふ。職員は平生は決して個室には立ち入らないが、消防設備の点検など、やむをえず事前に連絡のうえ立ち入ることがある。いかにも娘の部屋らしく、キッチンと整理されていて、可愛い縫いぐるみなどが本棚に飾られているというのが大部分だが、中には足の踏み場もないという部屋もある。時々母親が上京してきて掃除・洗濯をしていることがあるが、そうした部屋かもしれない。

生活は大変健全

取材をしたというマスコミの申し入れも時々あるが、多くはナンパの対象としての女子学生という見方しかしていない。しかし、私の見るところ、現代の女子大学生はたいへん健全だといっていると思う。たしかに門限近くになってボーイフレンドに送られて帰ってくる学生も僅かにあるが、そうした学生も生活ぶり

変る就職意識

この十年で最も変わったのが、女子学生の就職意識である。十年前には、日本の有機化学を卒業して、親の意向でテレビ高知に就職したというケースがあった。もちろん本人もそれを当然と思っていたのかもしれないが、今ではとても考えられない。この四、五年来、郷里にかえって就職する方が稀になっている。なかにはデイトラーになって、十億円しか預からしてくれないといつてアメリカ系の会社に移った子もいる。勤務地も国内はもとより、海外でも結構ですと平然といっている。

女子大生の海外旅行もきわめて普通になっている。四年制大学では四人のうち三人までが在学中に海外旅行にいつていると思われる。

ミニスカートの毛皮だと娘達も少しづつ変わりつつあるが、自分の生活そのものはガッチリ守っている。

女子学生会館の館長になって十年たつて、ついに今年、私の長男と同年の父親の娘が入館してきた。若い娘達の間で雰囲気は華やかだが、その中でいっそう老境を感じざるを得ないこの頃である。

近況報告

●堂守になるの記

30回 大野 進

旧臘二日。標高六百、赤城山中の堂守になった。寺の宗派は新義真言。入山当日は当り年の柿が陽に映え、うらうらと天上的な愉悅にひたつた。正月も事もなく過ぎる。

ところが二月に入った途端、古老も首を傾げる連日の雪だ。かくて広い寺域の雪掻きで毎夜バタン・キューの日々。朝の勤行の折り、「約束が違うのではありませぬか」と御本尊にもの申したが、勿論御本尊は何事も保証してくれていたわけではない。

しかし、飄風も朝を終えず、やがて再び愉悦の日々がやってきた。実際、これほどの草花、花木の繚乱をこれまで見たことがない。「お約束は見事に果たされました。」とある日御本尊にゴマをすった。いい加減な堂守である。

●30回 鍋島 高明

私の持病である古本熱は高じるばかりです。先年、自宅改築の際、三、四千冊収容できる書庫を確保し、やれやれと思つたのも束の間、今では玄關脇、食器棚の上など、あら

ゆる空間を求めて本ははびこっています。当初は石川啄木関係の資料集めが中心でしたが、最近では「マナー&文学」

が加わって増勢は速まるばかりです。古本九、新刊一ぐらの割合で、神保町、早稲田、高円寺辺りで仕入れていきます。年をとったせいと同じ本をダブって買い込む事が多くなりました。改造社の現代文学全集など十冊も同じ本が出てきました。いま刊行中の野上弥生子全集(二期)の日記十八、同十九も二冊ずつあることが分かり、値の張る本故、あすにも書店に返品に行こうと思つています。岩波の本だけに引き取ってくれるかどうか心配でもあります。

●33回 久保内 端郎

33回生は本年平成三年が卒業後三三年目に当たるため、六月一日東京、八月十七日高知で記念大会を開く。一つの大きな節目であった三十周年は昭和六三年。新たな出発の年となった翌年は奇しくも平成元年となった。卒業後の年数は従って、三十に平成x年のxを足せばすぐにでるわけである。何かしらつきを感じさせる話ではないか。

ところが、そのつきも欲ば

つてはダメだと痛感することがあった。昨年七月十月ブリテイッシュ・アカデミーの招きで訪英したが、その途中ゴッホ記念展を見ようと欲ばつてアムステルダムに立ち寄り、ワープロやカメラ、小切手、さらに校正刷の入ったカバンをとられ往生した。「欲ばらず、招待を受けた国に直行すべし」が、やはり肝心だったのである。



●38回 花岡 郁子

私は土佐高の卒業生として変わり種で、音楽大学に進学し、以来二五年ピアノ教師をしております。最近、大人の生徒さんが増えはじめました。余暇が増えたとか、眠っているピアノがあるとか、動機としてはそんなところですが、先日、定年退職された紳士からも申込がありました。

「音楽が好きだし、手先を動かしていればボケないのではないかと思ひ……」とのお言葉でした。

友人である筆山の編集長も常々よく同じことを云っております。とりあえず、私もその説を信じて、今日も明日も一生懸命ピアノを弾いて洗刺と暮らすつもりです。もっとも、はじめからボケ気味の人には効果の程はよく分からないとの陰の声もあります。ボケが心配になりかけた皆様は御一考なさってはいかがでしょうか。

●39回 足立 さゆり

ふと気がついてみたら土佐高を卒業して、もう25年以上になっていました。ひょんなことから「日本語」と関わりをもつようになり、私の子供と同じ年代の学生と大学院で机を並べています。

日頃それとなく使ってきた日本語も客観的に見るとなかなか難しいものです。日本語を通していろいろな国の人の生活やら、ものの考え方などをじかに知る楽しさもあります。最近では日本語のとても上手な外国人が多くなり、そのエネルギーには驚かされます。それとは反対に私の方は、

ちょっとした文章を書くのに、なかなか筆が進まなくなつてしまいました。困ったものです。

●41回 森崎 初男

88年から90年までカリフォルニア大学の客員教授として渡米して感じた事は、米国はPositive社会で日本はNegative社会であるという事である。米国の学生は、授業中自分を売り込もうとして積極的に発言し、また教師側も長所を伸ばそうという教育をする。これに対して、日本の学生は失敗を恐れ発言をしないし、教師も短所を改善させることに重点をおく。つまり米国は加

点主義で日本は減点主義である。これは社会全体にも当てはまるのではないだろうか。前者は天才を多数生む代わり底辺が置き去りにされ能力差が拡大する。後者は反対となり、その差が縮小する。これからの学生には加点法がよさそうですが、底辺に居た自分の学生時代を思い起こせば、どちらの主義がいいものか悩んでいる今日この頃である。

34回・合田佐和子氏は朝日新聞連載の中上健次「軽蔑」の挿画を担当中。

急募 名簿入力の 若手メンバー求む!!

前号にて支部名簿作成のメンバーを募集したところ、早速55回生の中滝明男君という優秀な若手を新たに迎えることができました。名簿チームは十二月の発行にむけ、毎週土曜日夜遅くまで入力作業をしています。が人手不足で困っています。ファイトある若手協力者をひき続き募集します。

編集後記

▽三月十六日から十日間を高知で過ごしました。

いつものように同窓生に電話を入れること数えきれず。折しも松浦校長退任発表の直後だけに、話はもっぱらその点に終始。バスに乗れば、相客も「土佐高の卒業生とお見受けしますが……」と校長交代について話しかけてくる。「卒業生の中から校長を推せなかったのは残念ですが、森田先生は立派な方、安心なさって下さい」と。

しばらくの間は土佐高という名称と再度の筆山編集会のこと頭の中であらわゆる(ウ)

作曲・指揮 平井 康三郎(5回生)

詩と音楽の会々長・大阪音大教授

チェロ・作曲 平井 丈一郎

カルザス高専・国連シンフォニー顧問

ピアノ・作曲 平井 丈二郎

東京芸術大学教授・ジュリアード音楽基礎博士

三菱電機株式会社

相談役

進藤 貞和

(3回生)

〒100 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

ルイ・ヴィトン・ヴァン・クリコ・シャンパン・クリスチャン・ラクロワ

秦 郷次郎(31回生)

代表取締役社長



ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社

東京都港区南青山1-1-1

新青山ビル西館107

TEL(03) 3478-3694

FAX(03) 3478-3024

FAX(03) 3478-1490



代表取締役社長

泉 谷 良 彦

(29回生)

株式会社 ユニバーサル・ネットワーク・サービス

東京都中央区築地4丁目7番3号

〒104 築地ファーストビル4F

TEL. 03 (5565) 3883

FAX. 03 (5565) 3886

北本善彦法律事務所

弁護士 北 本 善 彦

(39回生)

〒102 東京都千代田区麹町4-5-10

麹町アネックス2F

TEL 03-3239-5681

FAX 03-3239-5683

TELEX 232-4668-TASLAW J



松 岡 巖(31回生)

代表取締役社長

ローラ アシュレイ ジャパン 株式会社

〒150 東京都渋谷区神宮前3-35-8 ハニービル青山

Tel. (03) 5474-2641 Fax. (03) 5474-2156

桜井 前田法律事務所

弁護士 前 田 留 里(48回生)

〒141 東京都品川区上大崎3丁目

13番21号荏原ビル110

TEL 03-3447-9774

FAX 03-3447-9775

有限会社 和 久

橋梁の計画・設計

小 松 三 男(41回生)

〒236 横浜市金沢区釜利谷町1423-36

TEL 045-782-1008

FAX 045-782-9145